

1 目標を達成するために～平成20年度の重点課題に関する報告

図書館の使命・理念、基本目標を達成するために、平成20年度は以下4点の課題について、重点的な取り組みを行った。

- (1) 図書館運営に関する評価システムの構築について
- (2) 豊中市子ども読書活動推進計画について
- (3) 豊中市図書館電算システム更新(リプレイス)について
- (4) 市民との協働について

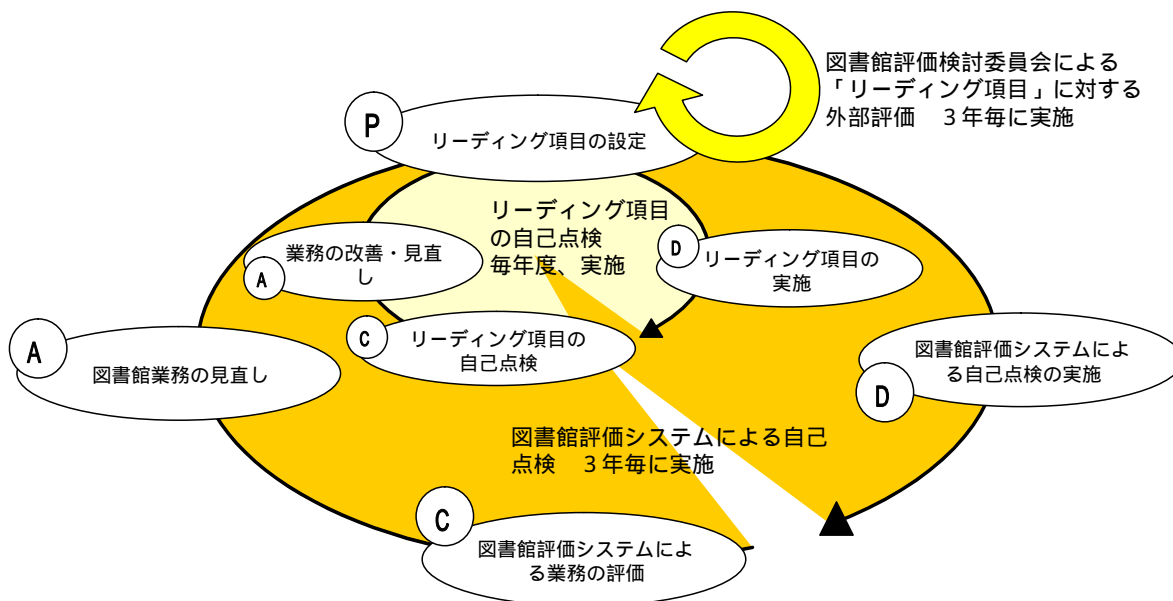
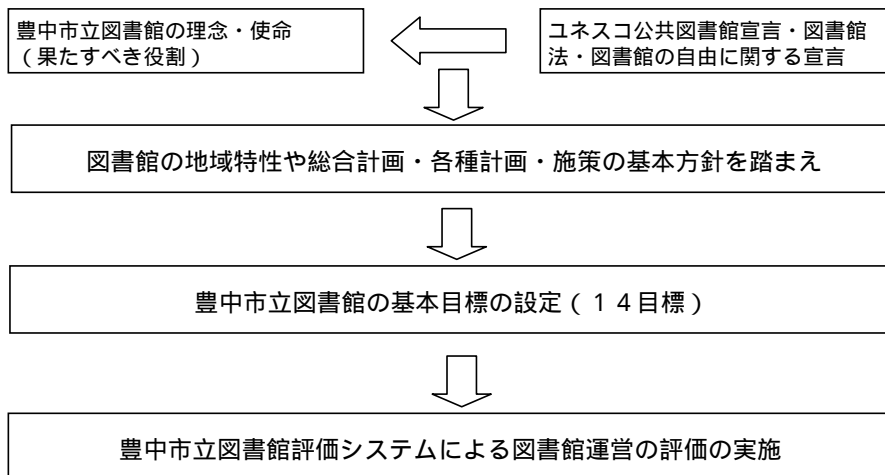
(1) 図書館運営に関する評価について

豊中市立図書館評価システム

豊中市立図書館は、全国的な行財政改革への取り組みが進められている中で、「地域の課題を共有できない図書館、地域に認知されない図書館は存在意義がなくなる」という、危機感を持っている。そのため、図書館運営を振り返り、これからの図書館がめざすべきビジョンを明確にするとともに、地域との情報共有を図る仕組として、図書館運営に関する自己点検と外部評価の早期導入が必要となった。そこで、豊中市立図書館協議会による提言「図書館における評価のあり方について」(平成19年(2007年6月))に基づき、「豊中市立図書館評価システム」を導入し運用を実施している。

豊中市立図書館評価システムは、14の基本目標に基づき、「経営・運営・管理状況に関する評価」と「図書館の設定目的・使命の達成状況に関する評価」の側面から、それぞれの中項目・小項目を設定し、構成している。豊中市立図書館評価システムの全項目については、3年に一度、職員による自己点検を行い、現状業務の分析と見直し等を行っていく。

平成20年度(2008年度)には、豊中市立図書館評価システムの中から、豊中市立図書館の運営状況を評価するための基本項目となる「豊中市立図書館評価システム評価表 リーディング項目」(以下「リーディング項目」という。)を設定し、PDCAサイクル(計画(Plan) - 実施(Do) - 評価(Check) - 改善(Act))に基づき、リーディング項目の達成状況及び進捗状況について、毎年度、職員による自己点検を行なう。また、3年に一度、市民公募委員を含めた豊中市立評価検討委員会によって、リーディング項目に対する外部評価を行なっていく。なお、「リーディング項目」の設定についても、豊中市立評価検討委員会において評価の対象となっている。



豊中市立図書館評価システムのPDCA(Plan-Do-Check-Act)サイクル

豊中市立図書館利用者アンケート調査の実施

[1]目的

豊中市立図書館では、平成18年(2006年)に図書館活動の評価指標を作成し、以来、図書館活動の総点検に取り組んできた。図書館活動を評価するためのデータのうち、資料の購入冊数や職員数などの投入量、利用者数、貸出し数、予約数などの算出量については、これまでも図書館サービス向上のための必要指標として収集され、その結果は『豊中市の図書館活動』の中で公開されてきた。しかし、それらのサービスが利用者にとどの程度認知され、満足されているかについては、これらのデータからは推定できなかった。

そこで、図書館利用者のニーズ等を把握するため、図書館利用者アンケート調査を実施した。アンケート結果に基づき、サービス内容等は適宜、見直しを図っていく。

アンケート調査の概要は次のとおりである。なお、この調査の実施には、当市の図書館協議会委員である村上泰子さんのご協力をいただいた。

[2]期間 平成20年(2008年)11月20日(木)から11月30日(日)

(ただし、休館日は除く。)

[3]回答者・対象

豊中市立図書館の中学生以上の利用者(来館者)

母集団(平成19年度個人登録者数(12歳以上、不明除く))145,029人

・回答者数

母集団	配布数	有効回収数	有効回収率
145,029人	5,540部	4,274部	77.1%

・回答者の職業

回答者の職業は、「家事専従者」(25.8%)が最も多く、次に「無職」(21.6%)、「会社員」(20.8%)といった順になっている。

[4]場 所 豊中市立図書館(9館)

[5]方 法 選択式アンケート調査

[6]回 収 図書館内設置回収箱

[7]質問項目

基本属性	性別、年齢、職業等、居住地
図書館の利用について	利用頻度 来館目的と達成度 利用しやすさ(満足度、重要度) 個別サービスの満足度・認知度
自由記述	

[8]アンケート結果の傾向

このアンケート調査で、利用者の図書館サービスの満足度や利用状況に関して、「読みたい本や雑誌の充実度が低いこと」や「リクエストサービスなどは、認知度は高いが利用度が低いこと」などの状況がわかった。「読みたい本や雑誌の充実度が低いこと」に関しては、選書方針を明確にし、幅広い利用者ニーズ、地域ニーズに即したものになるよう、本・雑誌の充実努めていく。リクエストサービスその他のサービスに関しては、多くの利用者にサービスを知っていただけるよう啓発を行なっていくとともに、利用していただけるための工夫を行なっていく。また、自由記述欄の意見は、1,000件を超える声をいただいた。特に、自由記述欄の意見として多くあったのが、「蔵書の充実」「インターネットサービス」「図書館の開館時間・休館日」「図書館の設備」「職員の対応」「図書館を利用する上でのマナー」に関するものであった。「インターネットサービス」に関しては、平成21年(2009年)3月にホームページのリニューアルを行なった。ホームページのリニューアルに伴い、貸出の期間延長ができるようになったことや、携帯電話からも資料検索・予約などができるよう、新たなサービスを実施した。インターネットサービスは、今後、これらの他に様々なものを予定しているので、ホームページなどで周知を行っていきたい。

「図書館の開館時間・休館日」に関しては、さらなる利用者ニーズの向上及び図書館を利用されていない人たちに利用していただけるよう、祝日の開館などの検討を行なっていく。

「図書館の設備」に関しては、「自習室を確保してほしい」「本を読むスペースをもっとほしい」などの意見をいただいた。図書館本来の機能を確保しながらも、利用者ニーズにあったサービス・環境整備の向上について、利用者の声を聞くとともに、図書館の現状とすり合わせながら、対応を行なっていきたい。

「職員の対応」に関しては、「職員のカウンターでの対応が悪い」「職員の声が大きい」などの意見をいただいた。これからは、より一層の丁寧な対応を職員ひとりひとりが心がけるとともに、職員の意識改革及びカウンターサービスなどの向上に努めていきたい。

「図書館を利用する上でのマナー」につきましては、本に落書きや破損があることや、新聞や雑誌を読まれる際の利用者のマナーに関しての意見をいただいた。今後、利用者の皆様への啓発活動を通じて、図書館を利用する上でのマナー向上に努めていく。これら以外にも様々な意見をいただいた。図書館は、このアンケート調査結果に配慮しながら、これからの図書館運営に努めていきたいと思う。アンケート調査結果の詳細は、豊中市立図書館及び豊中市立図書館ホームページで情報公開している。

(2) 豊中市子ども読書活動推進計画

子どもの読書活動の推進に関する法律に基づき、本市では「豊中市子ども読書活動推進計画」を平成17年3月に策定し、これをもとに、市や市民が協力・連携し、子どもの読書に関わる活動を具体的に推進していくために、平成18年8月に「豊中市子ども読書活動推進計画実施計画」を策定した。この実施計画に基づき、図書館や学校をはじめ保育所（園）・幼稚園などの関係機関、市民団体・市民グループが連携し、子どもがあらゆる機会と場所において、自主的に読書ができるよう、様々な事業を進めるとともに、豊中市子ども読書活動推進連絡協議会を設置し、事業の調整や進捗状況の把握など、進行管理を行っている。

平成20年度は計画4年目にあたり、豊中市子ども読書活動推進連絡協議会（以後推進連絡協議会）を中心に取り組みを進めるなか、図書館は関係機関、関係部局との連携を深め、事業の充実を図った。特に乳幼児を対象とする4か月児健診時における取り組み「えほんはじめまして」や、子育てサロン・サークル等での出前絵本講座・出前おはなし会については、内容の充実をはかり回数も増加している。さらに平成18年度以後は児童書の蔵書および貸出冊数、おはなし会の参加人数がともに増加傾向となっている。

また、図書館と推進連絡協議会が共催し、平成20年度は市内4地域において、子どもや子どもの読書に関わる市民や行政職員がともに地域課題を考えつつ、子どもの育ちを見すえて交流を行う地域交流会を行い、121人の参加があった。平成21年度が計画最終年となるため、今後は計画の改訂作業に向けて、今までの取り組みについて自己評価を行うとともに、乳幼児の保護者、小中学生などを対象とした聞き取りおよびアンケート調査を実施し、取り組み内容をより充実したものとする予定である。

豊中市子ども読書活動推進連絡協議会

[1] 推進連絡協議会 委員

豊中子ども文庫連絡会、おはなしボランティアポケット、PTA連合協議会、 学校図書館を考える市民の会、地球ママくらぶのそれぞれを代表する者		
豊中市私立幼稚園連合会、豊中市民間保育園連合会、豊中市立小学校校長、 豊中市立中学校校長のそれぞれを代表する者		
(財)とよなか男女共同参画推進財団、(財)とよなか国際交流協会、 豊中市社会福祉協議会のそれぞれを代表する者		
市の関係部局	人権文化部	豊中人権まちづくりセンター館長、 蛍池人権まちづくりセンター館長
	こども未来部	子育て支援課長、保育課長、青少年課長
	健康福祉部	健康づくり推進課長
	教育委員会	学校教育室長、生涯学習推進室長、岡町図書館長

[2] 推進連絡協議会ワーキンググループ

<p>乳幼児グループ</p>	<p>豊中子ども文庫連絡会、豊中市私立幼稚園連合会、豊中市民間保育園連合会 健康づくり推進課、子育て支援センター、市立保育所、 幼児教育支援センターたんぼぼ、とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ 豊中市社会福祉協議会、図書館</p>
<p>小・中学生グループ</p>	<p>学校図書館を考える市民の会、おはなしボランティアポケット 豊中市PTA 連合協議会、豊中人権まちづくりセンター、 蛍池人権まちづくりセンター、子育て支援課放課後こども係 青少年課、義務教育課、学校司書「小学校」、学校司書「中学校」 地域教育振興課、とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ、図書館</p>
<p>障害のある子どもや 外国人の子どものグループ</p>	<p>地球ママくらぶ、しいの実学園、あゆみ学園、 (財)とよなか国際交流協会、図書館</p>

[3] 会議等開催状況

回数	開催日	内 容
第1回	20.5.23(金)	<p>会長および副会長の選出について 子ども読書の取り組みと今後のスケジュールについて 子ども読書活動の評価について</p>
第2回	20.11.13(木)	<p>平成19年度事業実施報告書(案)について 子どもと本をつなぐ地域交流会について 子ども読書活動の評価について</p>
第3回	21.2.10(木)	<p>子どもと本をつなぐ地域交流会について 子ども読書活動の評価について 平成21年度の子ども読書活動の予定について</p>

(3) 豊中市図書館電算システム更新(リプレイス)

[1] 概要

平成20年度、効果的効率的な図書館運営をめざし、図書館電算システムのリプレイスを実施した。これまでの図書館電算システムの改善点、利用者からの要望を踏まえた仕様書に基づき、事業者から提案を募り、その内容・価格(コスト)・プレゼンテーションを評価軸として選考する総合評価・プロポーザル方式での事業者選定をおこなった。さらに提案されるシステムを公正かつ公平に評価を行うため外部委員を招き選定委員会を発足、委員会で協議を経て選考する方法をとった。図書館電算システム開発事業者への告知から事業者決定、そして新図書館システムリプレイス・リニューアル稼働までの経緯は次ページの表のとおり。

[2] 新図書館電算システムの基本コンセプト

高度情報化社会の中で、図書館が、市民の要望に応え、信頼されるサービスを展開していくためには、その基礎として、最新のICT(Information and Communication Technology)ツールを活用した確実な処理、正確なデータやセキュリティ、そして市民にも従事者にも使いやすく、最新のサービスツールを常に提供できる図書館システムが必要不可欠である。そこで、本システムの基本コンセプトは、下記の4点とした。

- ・常に信頼される図書館システム
- ・誰にでも使いやすい図書館システム
- ・常に最新のサービスツールを提供できる図書館システム
- ・地域情報を収集・保存し、公開・発信できる図書館システム

[3] 選定方法

「豊中市立図書館総合システム選定委員会」において、『豊中市図書館総合システム選定基準』に基づき、事業者が提出した提案書による評価と見積書、プレゼンテーションを総合的に審査し、順位付けをおこなった。第1位を最優秀提案者とし、次点の者を優秀提案者と決定した。ただし、一定の水準を満たさない場合は、該当者なしとした。

* 「豊中市立図書館総合システム選定委員会」

選定委員会は、本市職員5名及び外部学識経験者3名など8名の構成とした。

選定委員会の議事内容には、提案者の技術上のノウハウ等が含まれており、これを公開することは提案者の事業活動等が損なわれ、提案者の正当な利益を害するおそれがあることから、選定委員会は非公開で実施した。

[4] 2008年3月での新サービス

- ・携帯電話の図書館ホームページを新設
- ・音声応答サービスの新設
- ・ホームページにおける利便性の拡大（貸出延長機能、上下本を順番に提供する機能など）

* 新豊中市図書館電算システムリプレイス～リニューアル稼働までの経緯

月	日	曜日	実施内容
5	21	水	第1回選定委員会会議 委員の紹介（委員長・副委員長の選出） 図書館システムリプレイスの説明 実施要領・提案依頼書・選定基準・採点基準の説明及び承認。
	28	水	図書館ホームページ・豊中市ホームページへの記事掲載 実施要領・参加申込書をホームページに掲載
6	4	水	仕様説明会 / ホームページ記事削除 参加・申込事業者 5事業者 内容 募集趣旨説明 提案仕様書・個別機能概要書 / 回答書・選定基準の説明
	9	月	質問受付期限
	17	火	質問に対する回答期限
	25	水	提案書受付期限
	27	金	提案書における疑義についてメール送信（5事業者）
7	1	火	提案書における疑義に対するメール回答期限（5事業者）
	3	木	プレゼンテーションの発表内容について参加事業者にメール送信 内容 「提案システムの特長（セキュリティ・拡張性）」 「システムの開発体制 / 稼働前稼働後のバックアップ」 「自由提案」、以上3点は必ず発表内容に含めること。
	4	木	選定委員会各委員へ採点表基準の確認
	10	水	第2回選定委員会会議 採点表 / 基準の確認 5事業者によるプレゼンテーション 委員による提案書等の総合評価 事業者決定
8 }			採用事業者との仕様会議
2	14	土	図書館ホームページを一時停止
	16	月	図書館システムリニューアルのための休館及び資料点検
3	2	月	
	3	火	新システムによる図書館リニューアルオープン、新ホームページ公開

(4) 市民との協働について

各自治体で市民との協働がすすめられているが、豊中市立図書館と市民との協働事業としては、「子どもと本のまつり」が昭和56年、「子どもと本のつどい」が昭和61年から「豊中子ども文庫連絡会」との共催事業として取り組まれ、現在も続いている。他にも以下にみられる通り、さまざまな事業をするために市民と共に考え、行動し、地域に根付くものとして多くの市民の参加を得ている。(統計編20P参照)

平成20年度、市民との協働で行われた新規行事・事業は以下の通りである。

岡町

- ・あおぞらおはなし会・・・おはなしボランティアポケットの協力で、動く図書館のステーションで絵本の読みかせをおこなった。

庄内

- ・しょうないおやこでにほんご・・・ボランティアグループ(地球ママくらぶ)のメンバーが外国人親子に日本語を教える
- ・おはなし会(庄内まつり・公民館まつり他)・・・お話ボランティア(ポケット)さんによる、ストーリーテリング・手遊び・紙芝居・パネルシアター

千里

- ・はじめてのインターネット・・・講師は市民グループ『千里井戸端ネット』
図書館のインターネット端末を利用した情報検索など初心者向けの講習会
- ・千里コラボ市民運営会議・・・千里文化センターの事業のあり方や実施・評価手法などを市民とともに検討する会議
- ・子供と本をつなぐ地域交流会・・・中部・南部・北部・東部に分かれて、地域の子どもに関わる活動をしている市民や団体、民生児童委員、幼稚園、豊中市各部局担当者が集まって「子どもの育ち」や「地域の課題」について意見交換を行う場。
- ・香月日輪さん講演会・・・共催；学校図書館を考える市民の会 講師は作家、香月日輪さん。ヤングアダルト世代を対象とした講演会。地元の小中学生との対談もあり。

服部

- ・冊子「おはなしポケット10周年 思い出の一冊」の発行・配布
(おはなし会「おはなしポケット」の10周年を記念して、ボランティアのみなさんの協力のもと冊子を作成。ボランティア「おはなしポケット」のみなさんと職員が、これまでの読み聞かせをしてきた中から思い出の、お気に入りの1冊を紹介したもの)

蛭池

- ・おはなしもこもこ・・・おはなし会
- ・なつやすみほたるっことしょかたのしみ隊「じぶんでつくれるにんぎょうげき」

- ・軍手人形の製作と人形劇の実演
- ・みんなでつくるげき「てぶくる」・・・絵本『てぶくる』のお話の主人公に沿って、紙などで衣装を工作し、劇を演じる。

市民との協働による実施事業一覧

館名	行 事 名
岡町	図書室おはなし会
	えほんはじめまして
	とよなか地域こども教室（おりがみ、モノづくり、えいごのおはなし会）
	子どもと本のつどい
	おかまち・おやこでにほんご
	子どもと本のまつり
	子どもと本をつなぐ地域交流会 中部
	あおぞらおはなし会
	えほんはじめまして
庄内	紙芝居 すきやねんやってみたい子集まれ！
	子どもと本をつなぐ地域交流会 南部
	夏休み工作ランド・くるくる絵本づくり
	おはなし会（庄内まつり、公民館まつり他）
	昔遊び工作教室（庄内まつり、公民館まつり他）
	おはなしぼけっと
庄内幸町	えほんはじめまして
	おはなしワールド
	コラボまつり(千里文化センターフェスティバル)
	はじめてのインターネット
	千里コラボ市民運営会議
	子どもと本をつなぐ地域交流会 東部
	香月日輪さん講演会
	おはなしプレゼント
野畑	おはなし大会
	ESD おやこでおはなし会
	えほんはじめまして
	とよなか地域こども教室（てづくりあそび、のばたけ囲碁くらぶ ほか）

館名	行 事 名
	子どもと本をつなぐ地域交流会 北部
東豊中	おはなしたんけんたい、おはなしたんけんたいクリスマス会
	むかしあそび「つくってあそぼう」
	外国人親子の交流会（外国語でおはなし会～いろんなことばにふれてみよう）
	大人のための朗読サロン
	東豊中図書館落語会「二ノ切寄席」
服部	えほんにたち！
	おはなしポケット（1才～3才・4才以上・小学生）
	おはなしポケットスペシャル ほか
	はっとり寄席
	モノづくり教室
	冊子「おはなしポケット10周年思い出の一冊」発行
高川	おはなしくらぶ（1歳半まで・4歳～・高川小放課後子どもクラブ）
	おはなしくらぶ・紙芝居会夏休みスペシャル
	紙芝居ボランティア（紙芝居会・練習会）
	とよなか地域こども教室
蛭池	おりがみ教室
	人権・平和月間事業（であい・ふれあい大賞作品展、表彰式）
	蛭池納涼祭
	おはなしもこもこ
	なつやすみほたるっことしゃかたのしみ隊「じぶんでつくれるにんぎょうげき
	みんなでつくるげき「てぶくろ」

しょうないREK（H19年度「しょうないモデル事業 実行委員会」から改称）

～正式事業名：リサイクル本の活用による図書館の活性化と地域における共生を推進するための事業～

平成16年度協働事業提案制度に基づき、協働事業として「リサイクル本の活用による図書館の活性化と地域における共生を推進するための事業」が提案された。

平成17年度は、これらの具体化にむけ、市の各課・関係機関、提案団体が「地域環境共生活性化会議」を立ち上げ、「庄内検討懇話会」（のちの「しょうないモデル事業 実行委員会」）を開き、主に庄内地域で活動する関係団体に参加を呼びかけた。

「子どもの安全な居場所づくり」・「在住外国人との共生」・「地域の活性化」・「環境にやさしい街づくり」などを地域の課題とし、「イベント」・「常設事業」・「情報発信」の三つを軸に、庄内駅前商店街との『庄内まつり』への参加をはじめとして、『庄内公民館まつり』、『市民環境展』や人との共生をテーマとした『多文化フェスティバル』を実施した。あわせて常設事業については庄内図書館3階にリサイクル本販売コーナーをオープンし、売上金については、地域への還元を行うこととした。

この4年間の活動をとおして、「しょうないREK」の知名度も上がり、地域との関係も次第に根付いてきている。H20年度の事業内容については、新しい形を模索した1年だった。これまではイベントの体裁を前面に出してきたが、「こども演芸会」（こども歌舞伎）、リレートーク「国際社会と地域社会」など新しい試みとして開催し、事業の成熟、地域へのつながりと広がりが見えてきた。「しょうないREK」の活動「環境・活性・共生」をキーワードとした協働事業のありようをもっとPRし、多くの人に知ってもらうこと、参加してもらうことを目指した仕掛けを作り、支える仲間のネットワークを増やしていきたい。また、今後の課題として、これまで進めてきた牽引役としての持続可能な方法についても考えていかなければ、活動を維持できなくなってしまう。協力体制、メンバーの継承、協働事業の意味など再検討すべき時期に来ていると考えられる。

次年度は事業の5年目を迎えるが、これまでの「しょうないREK」の活動の検証と課題、将来の構想・展望を考える上においても、5年間のまとめとしての報告書（5周年記念冊子）を作成し、協働事業のしくみ、行政、ボランティアの立場やあり方、軋轢、共感、新しい公共のあり方など、現在協働事業に取り組んでいる人たちやこれから協働事業を始めようとする人たちへも参考になるような報告書として発行を計画中である。

R = リサイクル E = イベント K = (情報) 瓦版

取組み内容

・しょうないREK 実行委員会 11回

・主催事業

事業名		実施回数・実施日	参加人数
リサイクル本の販売（毎週火曜日）		38回	2,251人
多言語情報コーナー・外国語資料展示（リサイクル本の販売スペース）		図書館開館日 （10時～16時）	
夏休み キッズプロジェクト	宿題解決コーナー 自然工作教室 子どものための絵画ワークショップ チャレンジ！サッカー 演劇ワークショップ	7/23・24・26	304人
こども演芸会	こども歌舞伎 音楽漫談 演劇 落語他	11/23	85人
リレートーク「国際社会と地域社会」地域の学校や暮らしから世界を考える	授賞式のインドで私が感じたこと 国際理解教育に取り組んで ASP七カ 国会議に出席して 渡日児童生徒の 相談事業の現場 ブラジルから日本に 帰国して 地元庄内地域の中での国際化 他	3/8	61人

チャレンジ将棋教室	日曜日の午前中に将棋教室・囲碁教室を開催 （将棋第1・3日曜、囲碁第2・4日曜）市内 の小学生・中学生を対象	20回	184人
チャレンジ囲碁教室		20回	157人
おやこでにほんご	外国人女性と子どものための場	38回	126人
REKサロン・陶器とりかえ隊	陶磁器の食器を回収・提供	11/25 1/27 3/24	140人
REKサロン・館長と話そう	REKサロンに来ている人と交流	5/27	8人

協働事業視察	山梨県 甲府市議会	2/19	8人
--------	-----------	------	----

・イベント参加

事業名		実施日	参加人数
庄内南公民分館文化祭	おはなしポケット 古本市	8/3	93人
庄内まつり	昔あそび工作教室 古本市 おはなし会 おばけやしき おばけ屋台 R E Kブース・子育て相談・情報の提供（子育て支援センター・保健センター）	8/20	594人
庄内公民館まつり	昔あそび工作教室 おはなし会	11/15・16	68人
市民環境展	エスニック屋台 古本市	12/13	197人

・情報誌「ええやん！しょうない」(瓦版)発行

発行日・号数	内容
平成20年7/10 瓦版9号発行	わがまち庄内(その1)江戸時代の庄内地域は八ヶ村でした 第6回庄内まつり庶民の活気あふれる町「庄内」のあのにぎわいをもう一度! しょうないMAP夏祭り編・お祭り情報 ほか
平成20年11/7 瓦版10号発行	わがまち庄内(その2)冷から100年前の交通機関は? こども演劇会こども歌舞伎・音楽漫談・演劇・落語 伝統芸能は、驚きと発見の宝庫だ! 伝統芸能って、なあに? ほか
平成21年3/1 瓦版11号発行	わがまち庄内(その3)神崎川の上流部は運河だった しょうないMAP共に生きる共に学ぶ・地域共生の取り組み 陶器とりかえ隊 ほか

住民参加によるウィキ型地域情報データベース構築に関する調査研究

「地域情報を収集・保存し、公開・発信できる図書館システム」の実現にむけて、財団法人地方自治センター（<http://www.lasdec.nippon-net.ne.jp/cms/1.html>）が主催する共同調査研究事業に豊中市を含む5市（池田市、吹田市、箕面市、三鷹市）で参加をした。

図書館が地域の情報センターとしての役割を担う中で、行政が収集した地域情報を発信するだけでなく、住民が直接地域情報を発信する仕組みについて検討をした。

この調査研究では、常に住民参加の視点を意識して次の3つを目標とし、以下のスケジュールで議論を重ね、報告書を作成した。

- 地域情報の収集・発信について研究する。
- 情報システムの構築について研究する。
- 住民参加によるウィキ型地域情報データベース構築モデルを提案する。

	日時	場所	内容
準備会	5月22日	豊中市	スケジュール調整 調査研究の内容に関する意見交換
第1回	6月12日	豊中市	新しいコンテンツサービスの形態について 先進事例「美麻 wiki の取組について
第2回	8月7日	吹田市	住民と行政が必要とする情報 住民（団体）が投稿（参加）できる情報及び情報提供するための仕組み
	9月7日		インターネットアンケート調査「インターネットと地域情報」
第3回	9月25日	三鷹市	インターネットアンケート結果 住民が参加することを前提とした運営管理（運用体制）の仕組み
	9月26日	葛飾区	葛飾区立図書館視察 講演「インターネットと著作権」
第4回	10月6日	箕面市	住民参加によるウィキ型地域情報データベースを住民・行政協働で管理運営する場合の具体的な役割と課題 住民参加によるウィキ型地域情報データベースを管理運営するに当たって、生じることが予測される問題とその解決策
第5回	12月11日	池田市	ウィキ型地域情報データベースの構築モデル 住民参加によるウィキ型地域情報データベースがもたらす「住民サービスと行政の利点及び効果」
	12月12日	豊中市	報告書の作成について
第6回	1月15日	豊中市	地域情報データベースの構成と必要な機能の報告 行政で共同利用するにあたっての課題と取組
第7回	2月5日	豊中市	報告書の確認

④ 図書館に関わる市民のとりくみ

- 昭和 35 年(1960 年) 12 月 「動く図書館利用者の会」発足(昭和 53 年 4 月「図書館利用者の会」に改称)(→庄内図書館開館)
- 昭和 38 年(1963 年) 2 月 「とよ読書会」発足
- 昭和 41 年(1966 年) 8 月 「豊中読書会」発足
- 昭和 46 年(1971 年) 2 月 「子どもの本を読む会」発足(同年 5 月「豊中子ども文庫連絡会」に改称)
- 昭和 47 年(1972 年) 6 月 「千里(豊中地区)に図書館をつくる会」発足(→千里図書館開館)
- 昭和 50 年(1975 年) 「そよ風文庫をそだてる会」発足
- 昭和 51 年(1976 年) 「豊中子ども文庫連絡会」が「子どもと本のつどい」を開催(昭和 61 年から図書館との共催事業)
- 昭和 55 年(1980 年) 4 月 「豊中子ども文庫連絡会」が社会教育関係団体となる
- 昭和 56 年(1981 年) 7 月 「子どもと本のまつり」を「豊中子ども文庫連絡会」と共催
- 昭和 61 年(1986 年) 2 月 「身近にとしょかんがほしい会」発足(→野畑図書館開館)
- 平成 元年(1989 年) 11 月 「どうしても図書館が欲しい会」発足(→東豊中図書館開館)
- 平成 3 年(1991 年) 10 月 対面朗読グループ『ヴォイス』結成
- 平成 4 年(1992 年) 6 月 「暮らしの中に生きる図書館を望む会」発足(→服部図書館開館)
(「学校図書館を考え専任司書配置を願う市民の会」発足)
- 平成 5 年(1993 年) 10 月 音訳ボランティア『グループ・エコー』結成
- 平成 6 年(1994 年) 1 月 おはなしボランティアグループ結成(後に「おはなしポケット」と命名)
- 平成 13 年(2001 年) 5 月 「豊中子ども文庫連絡会」結成 30 周年を迎える
- 平成 16 年(2004 年) 5 月 「豊中図書館の未来を考える会」発足
- 8 月 「地球ママくらぶ」が「リサイクル本の活用による図書館の活性化と地域における共生を推進するための事業」を協働提案
「豊中図書館の未来を考える会」が「千里のまちにふさわしい図書館構想をつくる一人と情報、人と人を繋ぐ図書館」を協働提案
- 平成 17 年(2005 年) 7 月 「しょうないモデル事業実行委員会(しょうない REK)」立ち上げ(平成 19 年 10 月「しょうない REK」に改称)
- 9 月 「豊中市新千里図書館・公民館創造会議」設置
- 平成 18 年(2006 年) 9 月 市政施行 70 周年記念「とよ読書会」500 回記念講演会開催
- 平成 19 年(2007 年) 12 月 「豊中市新千里図書館・公民館創造会議」提言提出
- 平成 20 年(2008 年) 5 月 住民参加によるウィキ型地域情報データベース構築に関する調査研究開始